

認知症の人の在宅生活継続を支援するケアモデル事業について

事業の概要

都の研究機関の知見を活用し、認知症になっても地域で暮らせるモデルやBPSD(行動・心理症状)の軽減に向けた支援手法を開発 <事業期間：平成28年度～平成29年度>

認知症とともに暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業

- ◆事業目的 「都市型・認知症ケアモデル」の構築
- ◆実施方法 (地独) 東京都健康長寿医療センターに委託
- ◆事業区域 板橋区高島平1～5丁目
- ◆実施内容 生活実態調査を踏まえて、認知症高齢者への診断後支援を行い、その効果を検証

- 医療・介護につがっていない認知症高齢者が相当数存在
- 高齢者の居場所にもなる「支援拠点」が、認知症の早期把握や進行予防、多職種による支援のネットワークづくりに有効

<認知症地域ケア体制の構築に必要な要素>

- ① 高齢者がアクセスしやすい認知症支援の「場」
- ② 認知症の人と家族を支える「人」の育成
- ③ 地域の持つ機能を発揮できる「関係」づくり

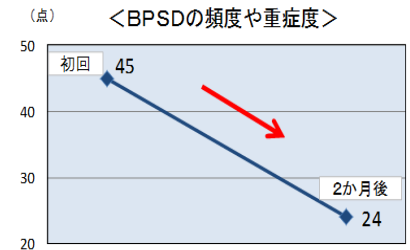
認知症の人の地域生活継続を支援するケアプログラム推進事業

- ◆事業目的 BPSDに対応するケアプログラムの開発
- ◆実施方法 (公財) 東京都医学総合研究所に委託
- ◆事業区域 世田谷区・足立区・武蔵野市
- ◆実施内容 スウェーデンで普及している「BPSDケアプログラム」の日本版を開発し、その効果を検証

<ケアプログラム活用の効果>

- BPSDの症状が見える化し、多職種のケアの統一性を確保
- 多くの事例でケアの質が向上
BPSDの症状が改善

【ケアプログラムの実践による改善事例】



今後の方向性

「第7期東京都高齢者保健福祉計画」に位置づけ、区市町村と連携・協力し、都内に広く普及・促進

【イメージ】

軽度認知障害 (MCI)

軽度認知症

中等度認知症

重度認知症

初期段階からの継続的支援の仕組みづくりが必要
⇒ 認知症とともに暮らす地域ケア体制の構築

容態に応じた適切な対応ができる専門職の育成が必要
⇒ 日本版BPSDケアプログラムの普及